

ら、同市は2009年に「笠岡市定住促進ビジョン」を策定。この一環として「笠岡市起業支援事業補助金（50～200万円）」を制度化し、同様の危機感を持つ地元金融機関と連携し、創業支援の取り組みを開始した。その後、市、金融機関、商工会議所の若手で構成する創業支援会議を設置し、月1回開催するようになった。

2014年、創業支援事業計画の策定にあたって、同市が創業支援会議の若手と意見交換を行ったところ、「各支援機関のトップが参画することで、ネットワークをあげての対応や意思決定のスピードアップが図れる」との意見が多かった。そのため市が改めてその旨を各支援機関にはかったところ賛同を得て、8機関で構成する創業支援事業計画を策定した。

連携支援の特徴

創業支援に積極的な金融機関が主導で連携を構築

同市は、笠岡信用組合が積極的な行動を開始し、他の支援機関と

共にネットワークを構築した経緯がある。特に着目できるのは、同信組が市内の金融機関（5機関）と日本政策金融公庫福山支店と共にネットワークの編成に尽力すると同時に、「かさおか創業サロン」の開設を主導した点にある。同ネットワークの特徴は以下の通り。

- ①笠岡信用組合は、早くから創業支援に取り組み経験を蓄積するとともに、創業融資を積極的に行ってきた。同信組はそれらの取り組みを講演会・セミナー等を通じて公表し、創業支援の啓発に努め、他機関が創業支援に取り組みきっかけづくりに尽力した
- ②また、同信組のトップが、地域の金融機関の幹部との親交を重ね、若手で構成する創業支援会議の開催を提案し、各金融機関の同意を取り付けた。これに市、商工会議所が合流することで地域を挙げての創業支援会議が実現した。若手が熱心に取り組み、積極的な情報交換を行い、相談対応の充実、セミナーの共同開催などを通じて創業者

数を増やすなど、一定の成果を収めるようになった

- ③各機関のトップが参画することで、ネットワークを挙げて対応できる体制に進化した
- ④これを受けて市は「笠岡市起業支援事業補助金」を改訂し、補助金を増額すると同時に、件数が予算を超えた場合は補正予算で対応するなど支援環境を整えた
- ⑤ネットワークの支援の枠組みは「創業相談」→「創業塾」→「笠岡市起業支援事業補助金（創業塾修了が条件）」→「参加金融機関による創業融資」というように創業の各段階に対応できる仕組みとした
- ⑥それまで利用者は、必要に応じて異なる支援機関を渡り歩かざるを得ず、使い勝手に難があった。これを解決するため、創業者が気軽に相談でき、ワンストップ支援が可能な施設として、駅前のショッピングセンターに「かさおか創業サロン」を開設した。また、各機関がスタッフなどを提供し共同で運営する仕組みをつくった

【事例】焼き肉店「たにもと」

経営する牧場の牛肉と地元産の食材を提供

創業者名 谷本 義子 氏

開業 平成26年10月 事業概要 地元谷本牧場の直営焼肉店 従業員数 9名

創業者の声

「谷本牧場は先代は乳牛を飼育していましたが、現牧場主（谷本氏の夫）になって肉牛に転換しました。安く提供することを目指し、

乳牛のホルスタイン種と肉牛の和種をかけあわせた交雑種の飼育に取り組み、試行錯誤の末に飼育方法を確立し、現在は約800頭を飼育するまでになりました。谷本牛は赤身の甘さが特徴で、和牛に劣

らない濃厚な味わいがあり、2011年に“かさおかブランド”の認定を受けました。

ただし、全て卸売業者を通じて流通しているため、どこで売られているのか、消費者はどう評価し



創業者の谷本さん